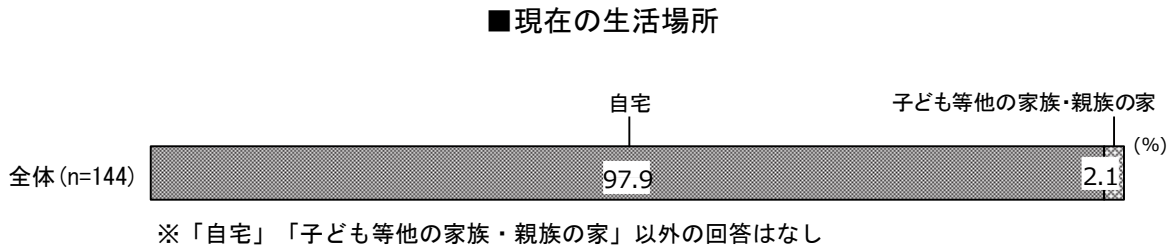


## 9. 在宅医療と介護に関する調査

### (1) 基本属性

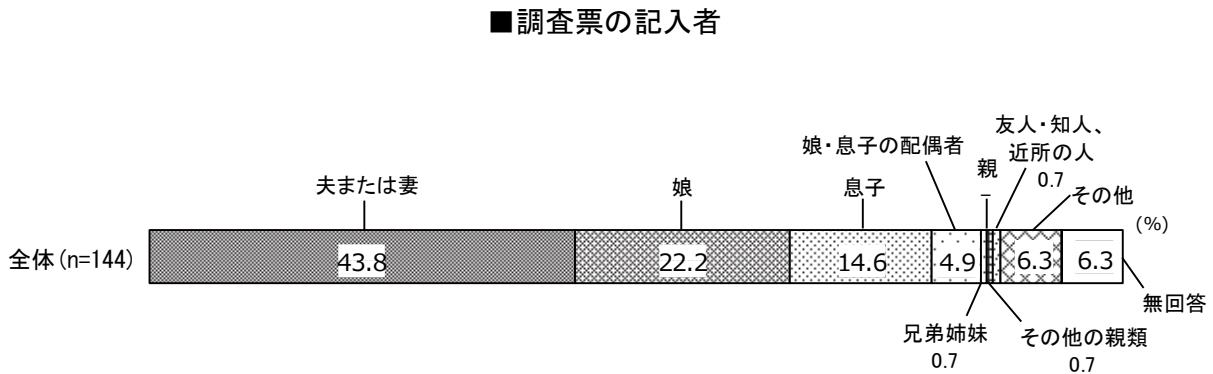
#### ① 現在の生活場所（問1）

現在の生活場所は、「自宅」（97.9%）が最も多くなっている。



#### ② 調査票の記入者（問2）

調査票の記入者は、「夫または妻」（43.8%）が最も多く、「娘」（22.2%）、「息子」（14.6%）と続いている。



## 第2章 各調査の結果

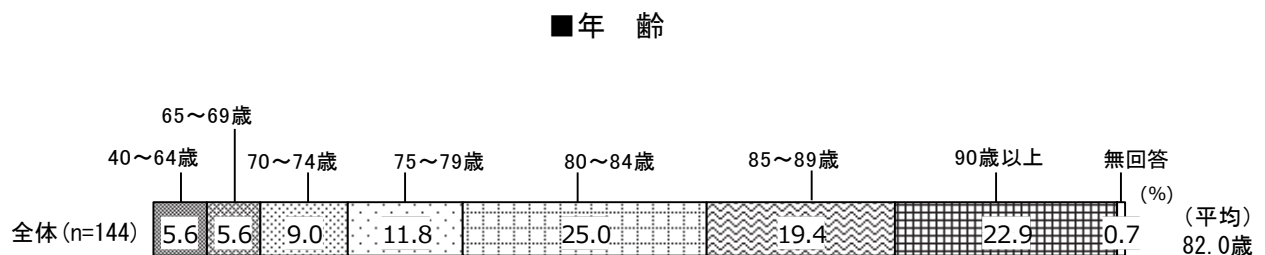
### ③ 性別（問3）

性別は、「男性」が41.7%、「女性」が57.6%となっている。



### ④ 年齢（問4）

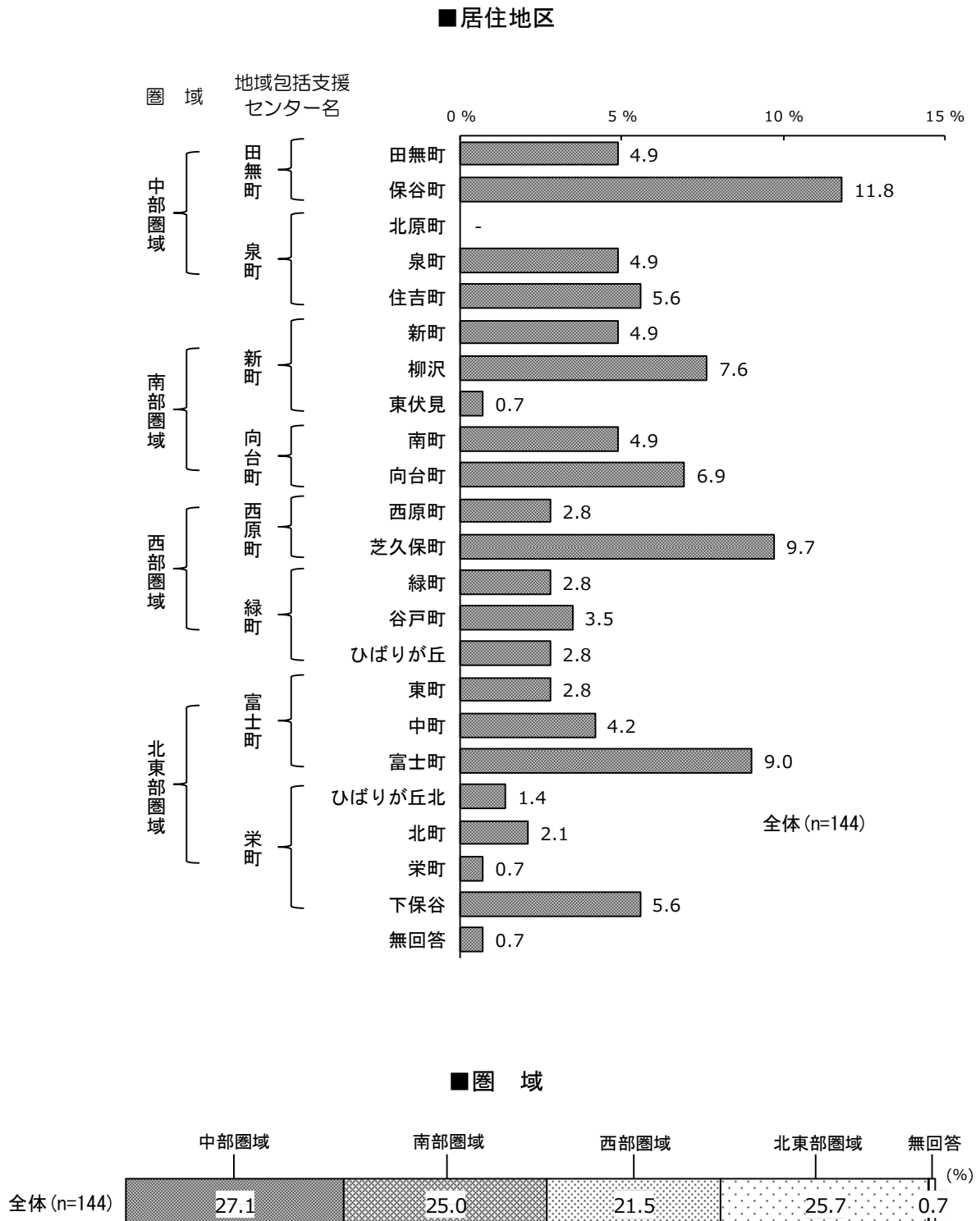
年齢は、「80～84歳」(25.0%)が最も多く、「90歳以上」(22.9%)、「85～89歳」(19.4%)と続いている。また、前期高齢者は14.6%、後期高齢者は79.1%、平均は82.0歳となっている。



⑤ 居住地区（問5）

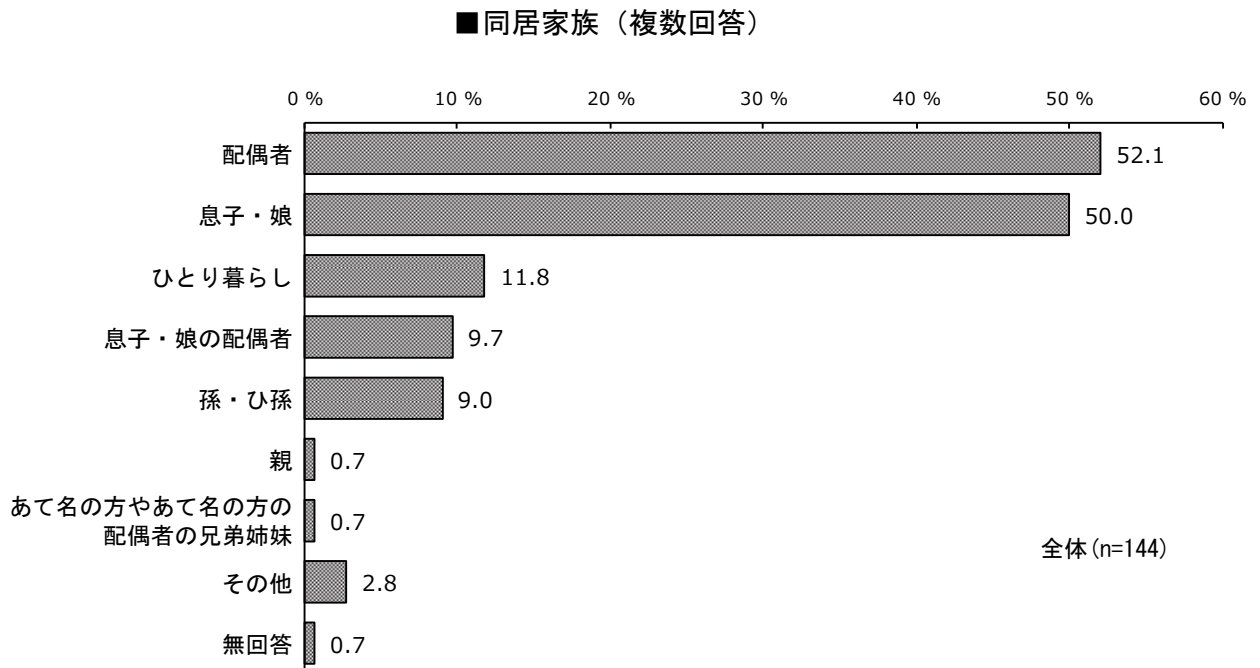
居住地区は、「保谷町」（11.8%）が最も多く、「芝久保町」（9.7%）、「富士町」（9.0%）と続いている。

圏域別にみると、「中部圏域」（27.1%）が最も多く、「北東部圏域」（25.7%）、「南部圏域」（25.0%）、「西部圏域」（21.5%）と続いている。



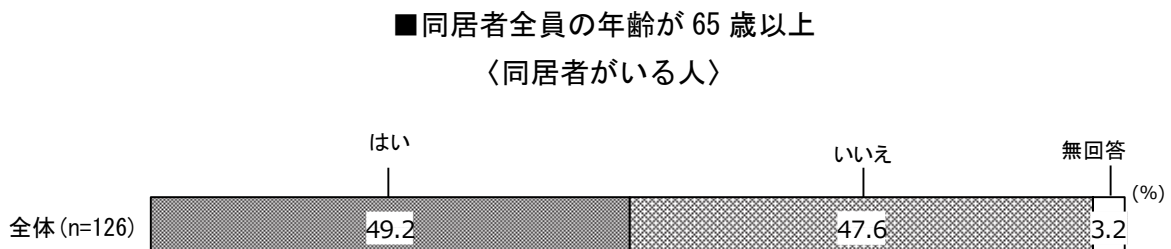
⑥ 同居家族（問6）

同居家族は、「配偶者」（52.1%）が最も多く、「息子・娘」（50.0%）、「ひとり暮らし」（11.8%）と続いている。



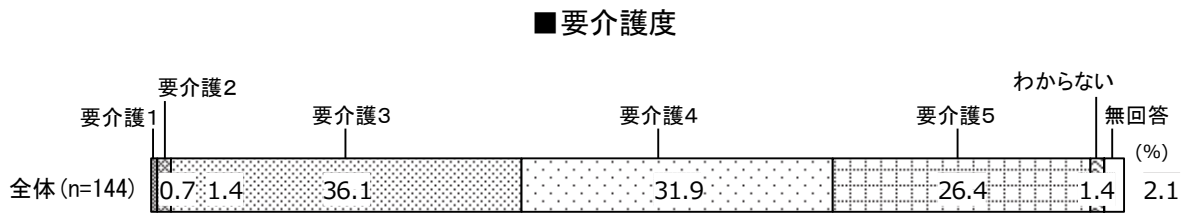
⑦ 同居者全員の年齢が65歳以上（問6付問）

同居者がいる人（問6で「ひとり暮らし」以外に回答した人）の同居者全員の年齢が65歳以上という回答は、「はい」が49.2%、「いいえ」が47.6%となっている。



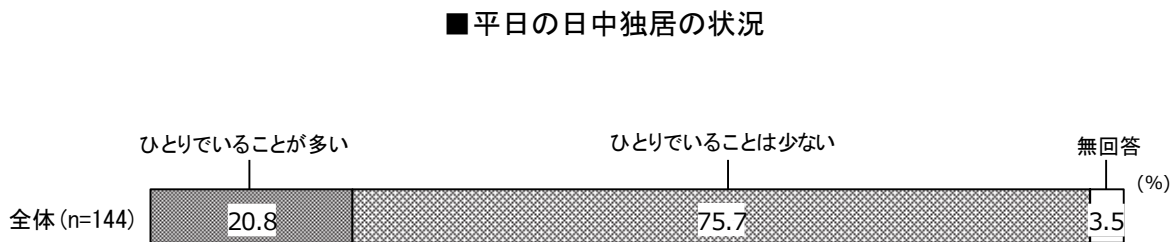
⑧ 要介護度（問7）

要介護度は、「要介護3」（36.1%）が最も多く、「要介護4」（31.9%）、「要介護5」（26.4%）と続いている。



⑨ 平日の日中独居の状況（問8）

平日の日中独居の状況は、「ひとりであることが多い」が20.8%、「ひとりであることは少ない」が75.7%となっている。

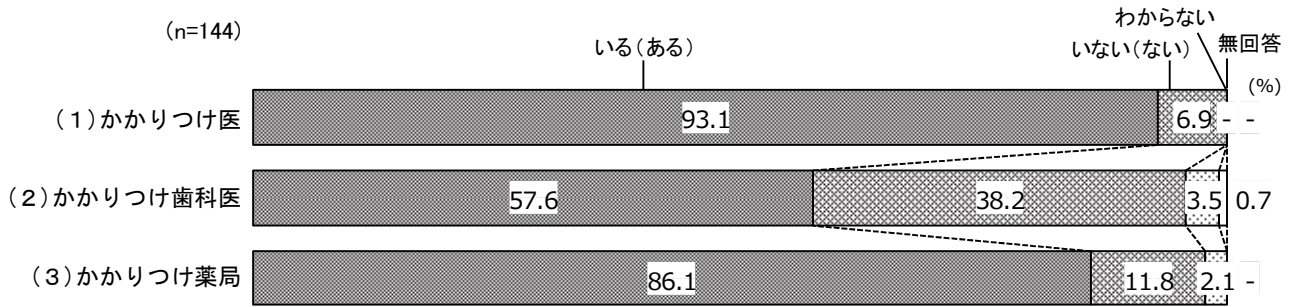


(2) 医療の状況

① かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無 (問9)

かかりつけ医が「いる」は93.1%、かかりつけ歯科医が「いる」は57.6%、かかりつけ薬局が「ある」は86.1%となっている。

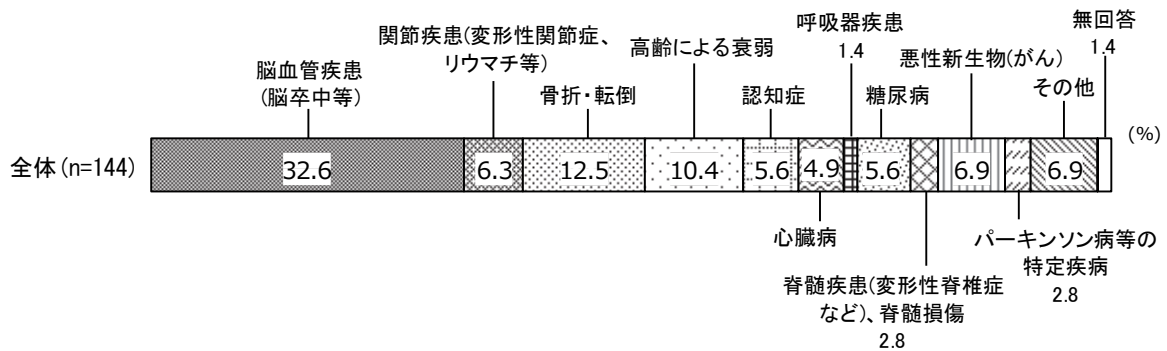
■かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無



② 療養が必要になった主な原因 (問10)

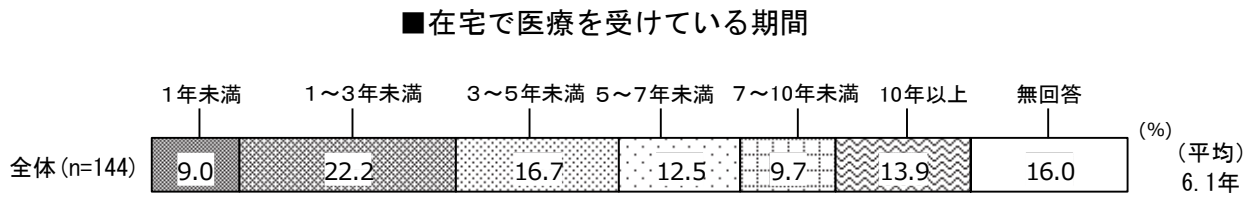
療養が必要になった主な原因は、「脳血管疾患(脳卒中等)」(32.6%)が最も多く、「骨折・転倒」(12.5%)、「高齢による衰弱」(10.4%)と続いている。

■療養が必要になった主な原因



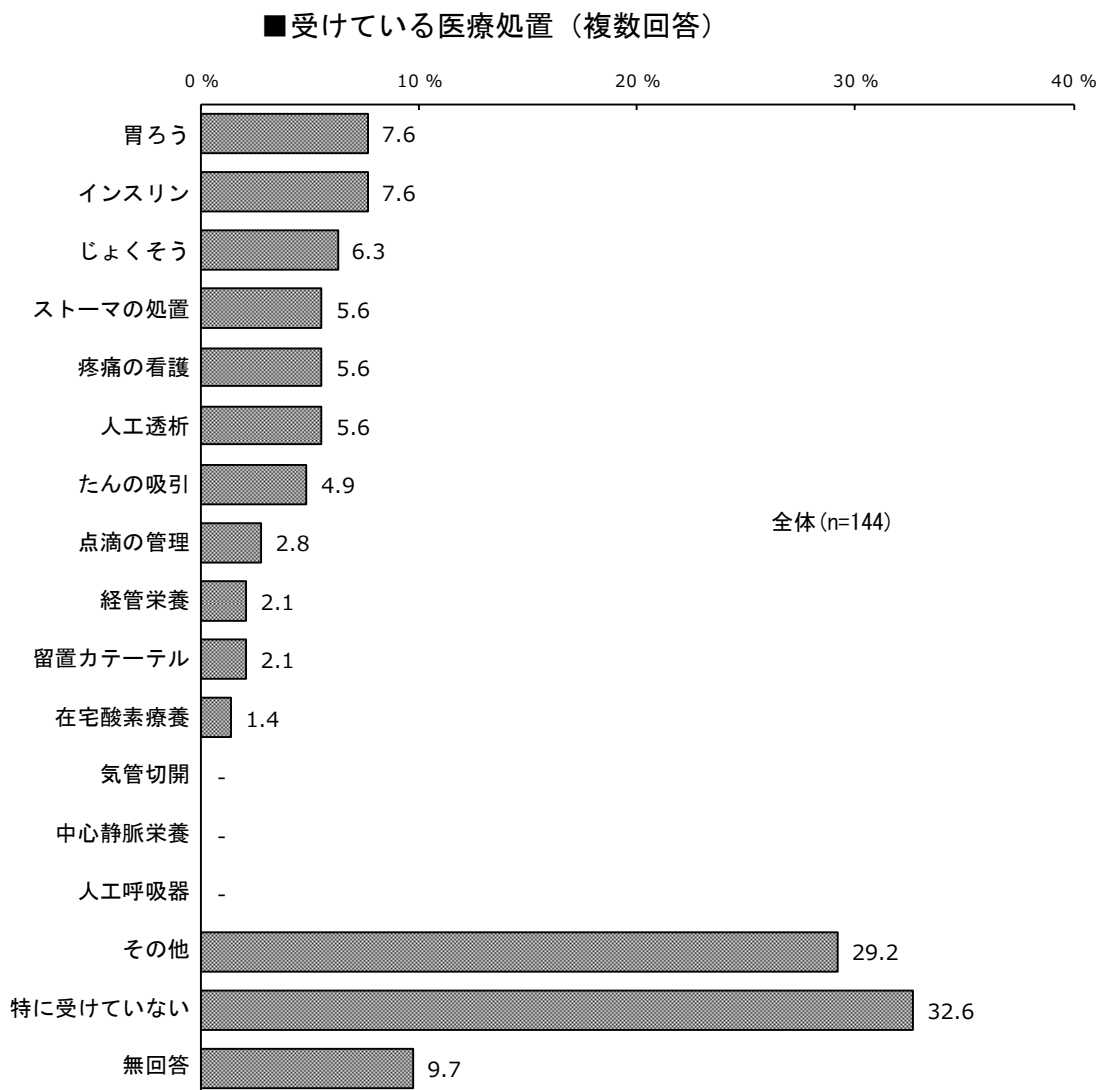
③ 在宅で医療を受けている期間（問 11）

在宅で医療を受けている期間は、「1～3年未満」（22.2%）が最も多く、「3～5年未満」（16.7%）、「10年以上」（13.9%）と続いており、平均は6.1年となっている。



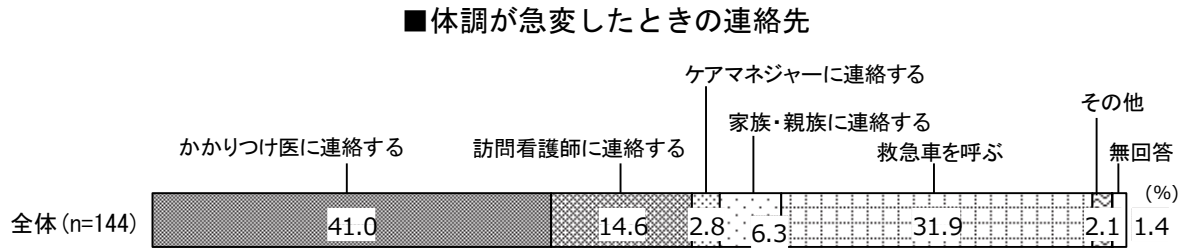
④ 受けている医療処置（問 12）

受けている医療処置は、「特に受けていない」（32.6%）が最も多く、「その他」（29.2%）、「胃ろう」「インスリン」（ともに7.6%）と続いている。



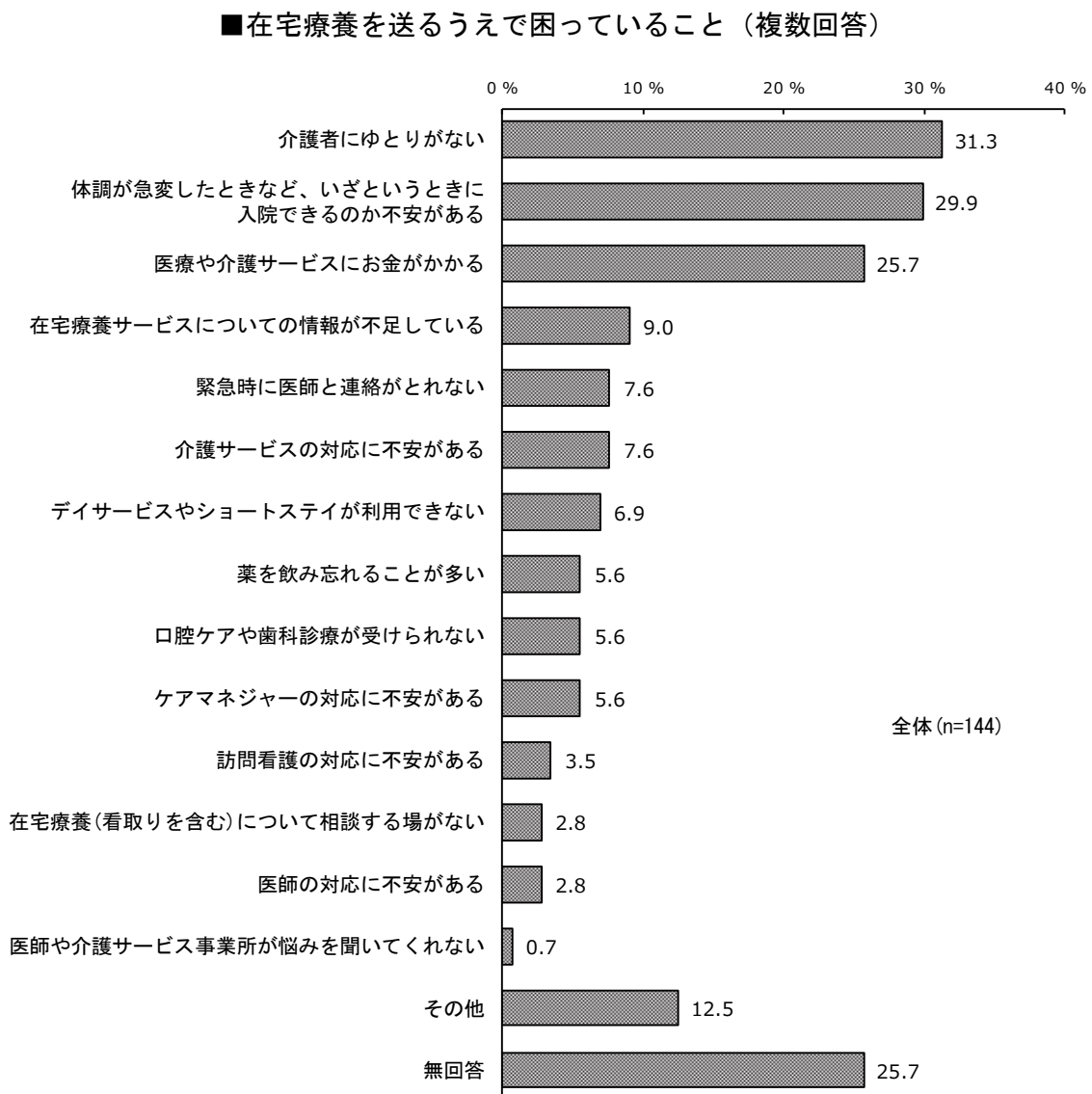
⑤ 体調が急変したときの連絡先（問13）

体調が急変したときの連絡先は、「かかりつけ医に連絡する」（41.0%）が最も多く、「救急車を呼ぶ」（31.9%）、「訪問看護師に連絡する」（14.6%）と続いている。



⑥ 在宅療養を送るうえで困っていること（問14）

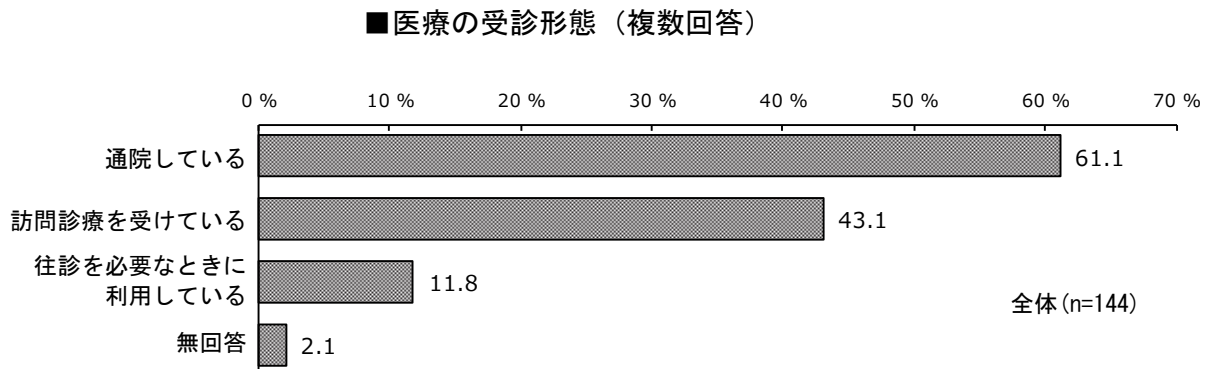
在宅療養を送るうえで困っていることは、「介護者にゆとりがない」（31.3%）が最も多く、「体調が急変したときなど、いざというときに入院できるのか不安がある」（29.9%）、「医療や介護サービスにお金がかかる」（25.7%）と続いている。





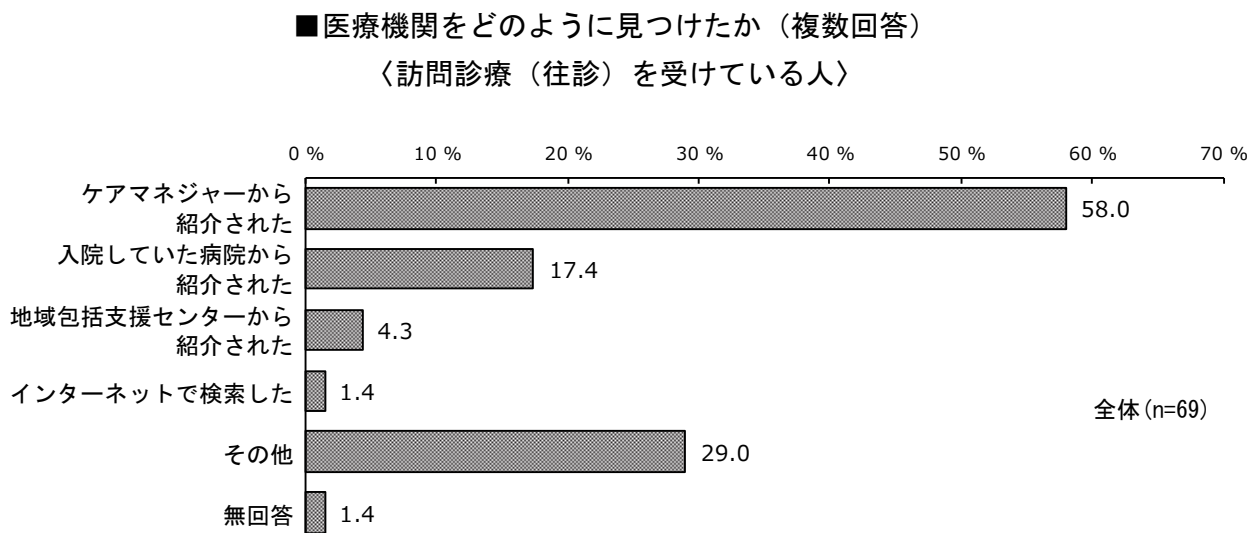
## ⑦ 医療の受診形態（問 15）

医療の受診形態は、「通院している」が 61.1%、「訪問診療を受けている」が 43.1%、「往診を必要なときに利用している」が 11.8%となっている。



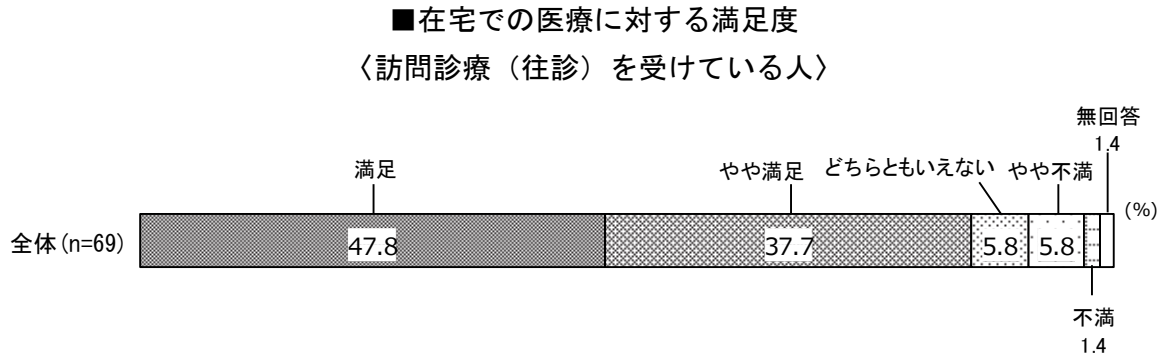
## ⑧ 医療機関をどのように見つけたか（問 16）

訪問診療（往診）を受けている人（問 15 で「訪問診療を受けている」「往診を必要なときに利用している」と回答した人）が医療機関をどのように見つけたかは、「ケアマネジャーから紹介された」(58.0%) が最も多く、「その他」（かかりつけ医、訪問看護ステーション、友人・知人など）(29.0%)、「入院していた病院から紹介された」(17.4%)と続いている。



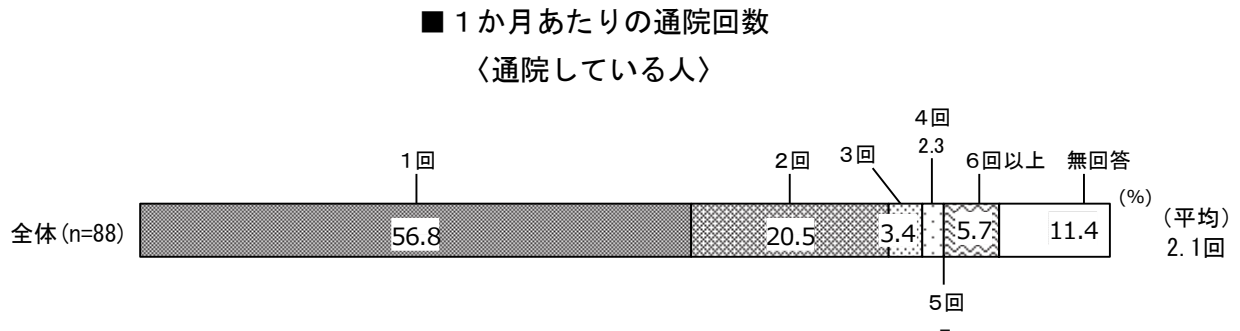
⑨ 在宅での医療に対する満足度（問17）

訪問診療（往診）を受けている人（問15で「訪問診療を受けている」「往診を必要なときに利用している」と回答した人）の在宅での医療に対する満足度は、“満足”（「満足」「やや満足」の合計）が85.5%、“不満”（「やや不満」「不満」の合計）が7.2%となっている。



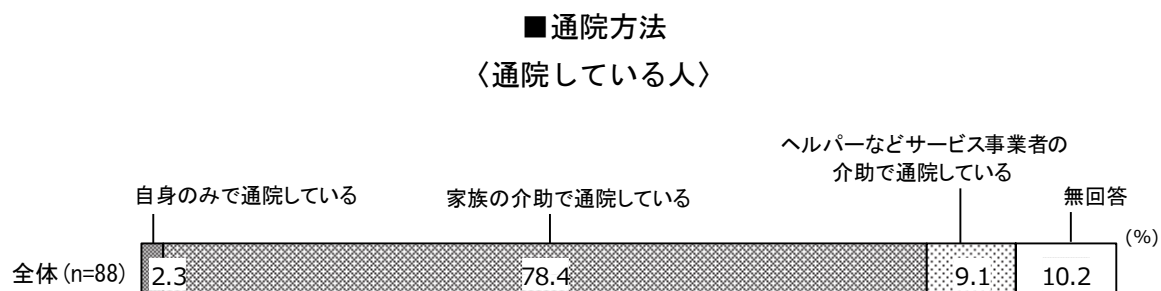
⑩ 1か月あたりの通院回数（問18）

通院している人（問15で「通院している」と回答した人）の1か月あたりの通院回数は、「1回」（56.8%）が最も多く、次いで「2回」（20.5%）が多くなっており、平均は2.1回となっている。



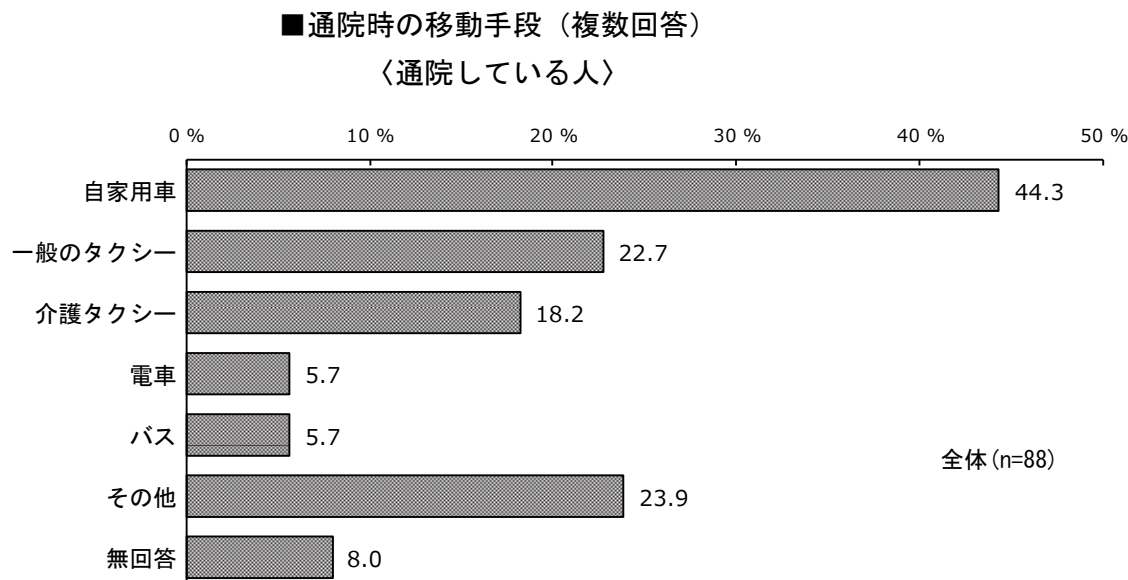
⑪ 通院方法（問19）

通院している人（問15で「通院している」と回答した人）の通院方法は、「家族の介助で通院している」（78.4%）が最も多く、次いで「ヘルパーなどサービス事業者の介助で通院している」（9.1%）が多くなっており、「自身のみで通院している」は2.3%となっている。



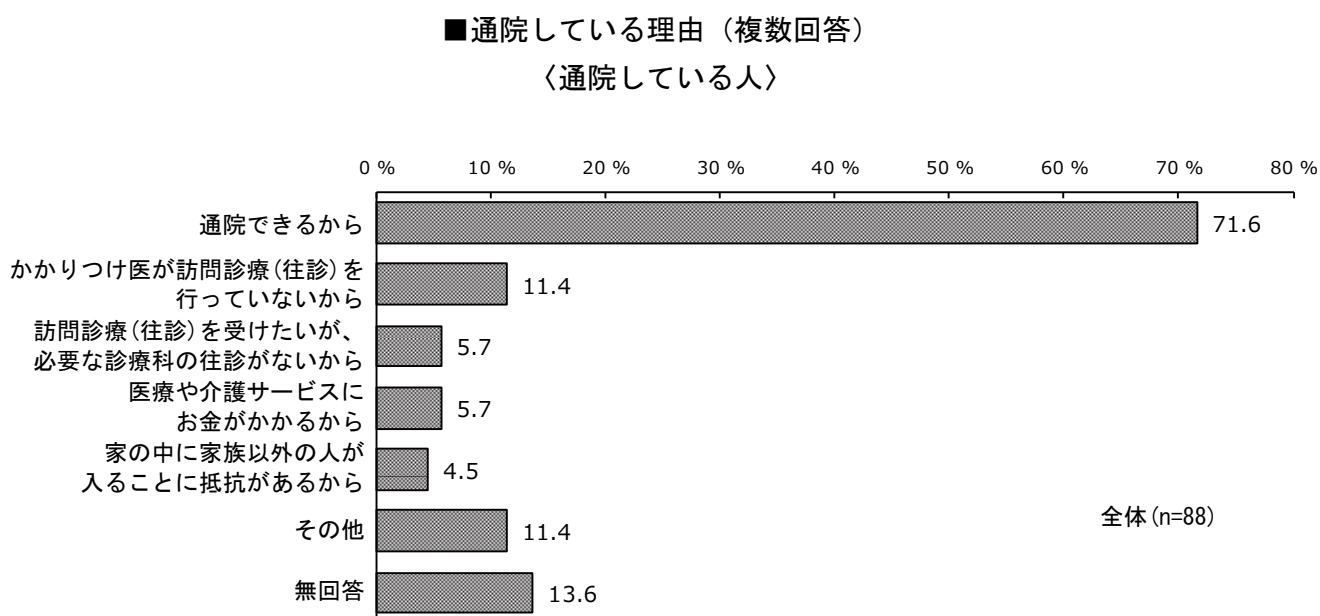
## ⑫ 通院時の移動手段（問 20）

通院している人（問 15 で「通院している」と回答した人）の通院時の移動手段は、「自家用車」（44.3%）が最も多く、「その他」（23.9%）、「一般のタクシー」（22.7%）と続いている。



## ⑬ 通院している理由（問 21）

通院している人（問 15 で「通院している」と回答した人）の理由は、「通院できるから」（71.6%）が最も多く、次いで「かかりつけ医が訪問診療（往診）を行っていないから」「その他」（ともに 11.4%）が多くなっている。



(3) 退院時のこと

① 退院支援の援助に対する満足度 (問 22)

在宅療養となる前に入院した人の退院支援の援助に対する満足度は、“満足している”（「満足している」「やや満足している」の合計）が 69.7%、“不満である”（「やや不満である」「不満である」の合計）が 11.1%となっている。

■退院支援の援助に対する満足度  
〈在宅療養となる前に入院した人〉

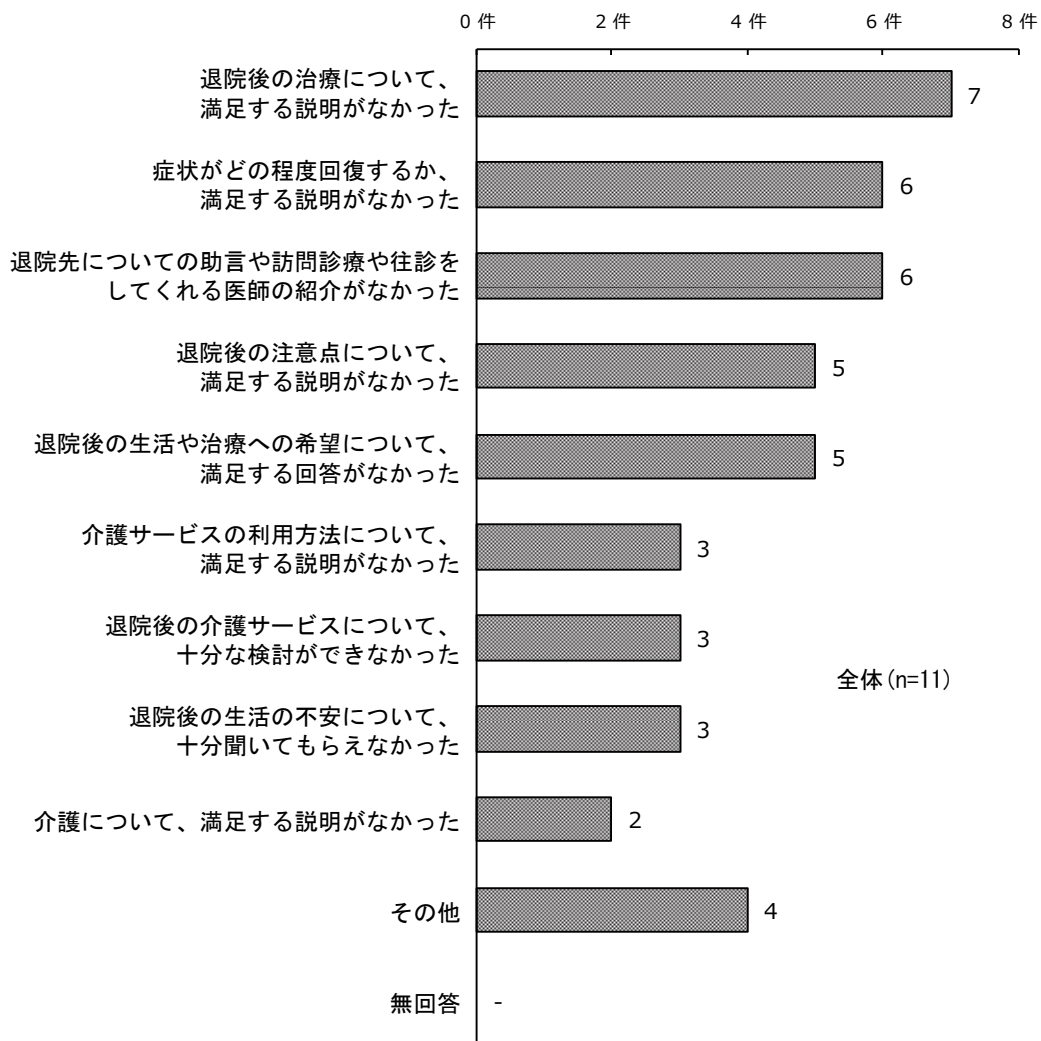


## ② 退院支援の援助に対する不満（問 22 付問）

退院支援の援助に対して不満がある人（問 22 で「やや不満である」「不満である」と回答した人）の不満の内容は、「退院後の治療について、満足する説明がなかった」（7 件）が最も多く、次いで「症状がどの程度回復するか、満足する説明がなかった」「退院先についての助言や訪問診療や往診をしてくれる医師の紹介がなかった」（ともに 6 件）が多くなっている。

## ■退院支援の援助に対する不満（複数回答）

〈退院支援の援助に対して不満がある人〉

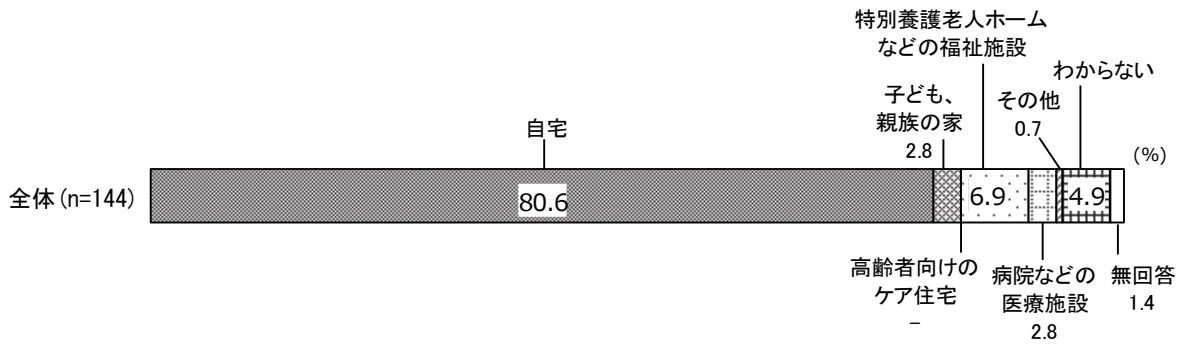


(4) 今後の希望

① 今後の生活場所の希望 (問 23)

今後の生活場所の希望は、「自宅」(80.6%)が最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの福祉施設」(6.9%)が多くなっている。

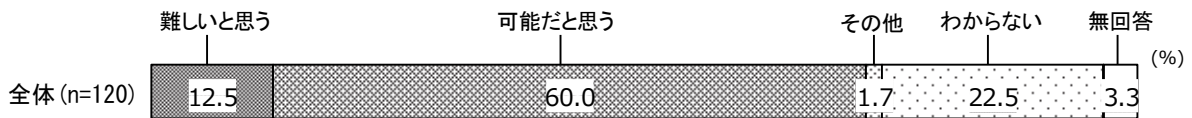
■今後の生活場所の希望



② 在宅での療養の実現可能性 (問 23 付問 1)

在宅での療養を希望する人 (問 23 で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人) の実現可能性は、「難しいと思う」が 12.5%、「可能だと思う」が 60.0%となっている。

■在宅での療養の実現可能性  
(在宅での療養を希望する人)

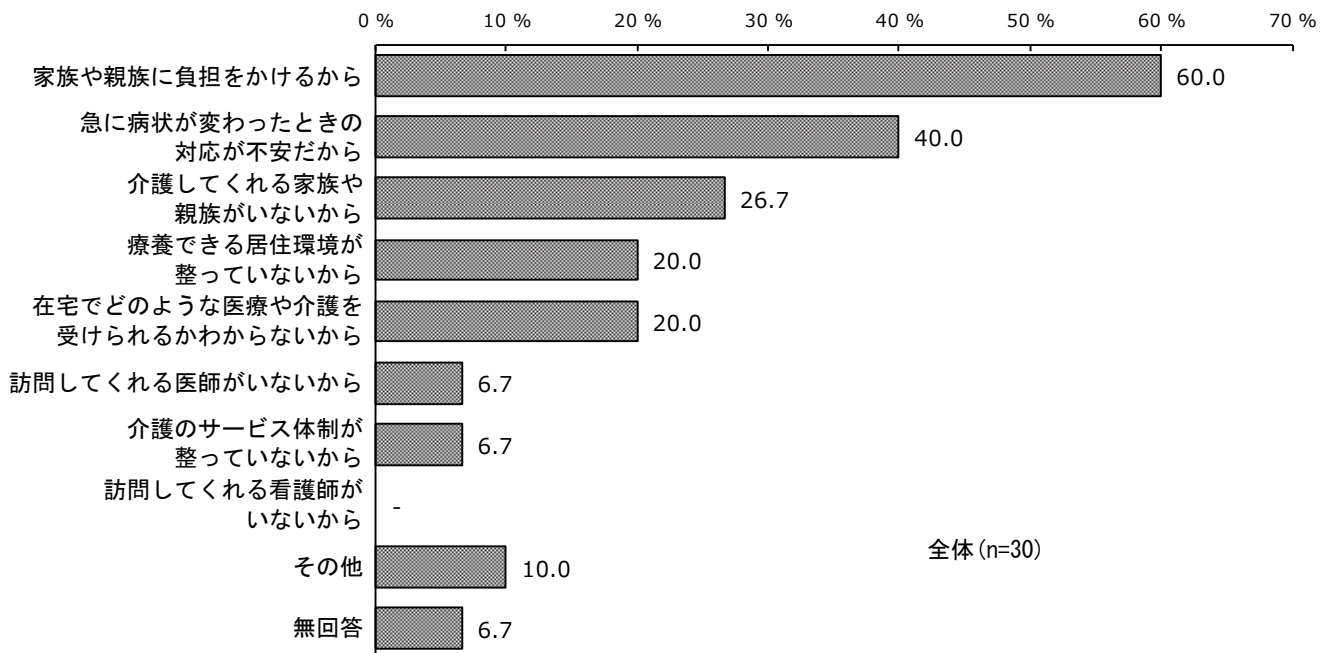


③ 在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問 23 付問 2）

在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問 23 で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問 23 付問 1 で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」が 60.0%と最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（40.0%）、「介護してくれる家族や親族がいないから」（26.7%）と続いている。

■在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで）

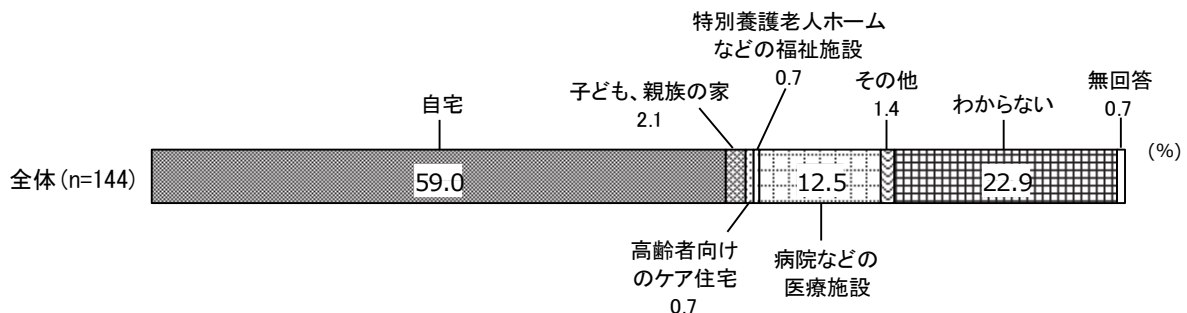
〈在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉



④ 最期を迎えたい場所の希望（問 24）

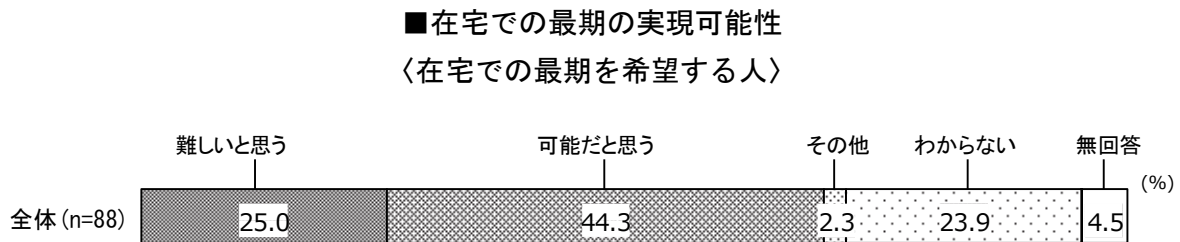
最期を迎えたい場所の希望は、「自宅」（59.0%）が最も多く、「わからない」（22.9%）、「病院などの医療施設」（12.5%）と続いている。

■最期を迎えたい場所の希望



⑤ 在宅での最期の実現可能性（問24付問1）

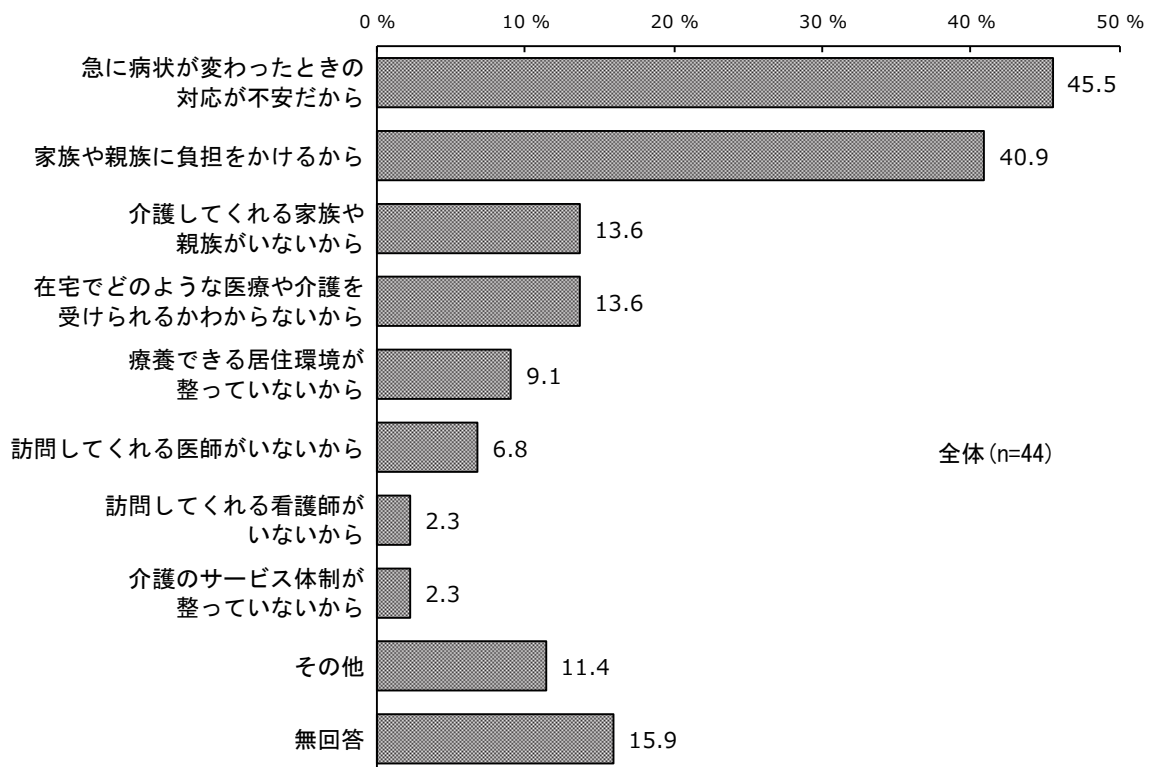
在宅での最期を希望する人（問24で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」が25.0%、「可能だと思う」が44.3%となっている。



⑥ 在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問24付問2）

在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問24で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問24付問1で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（45.5%）が最も多く、次いで「家族や親族に負担をかけるから」（40.9%）が多くなっている。

**■在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））**  
〈在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉

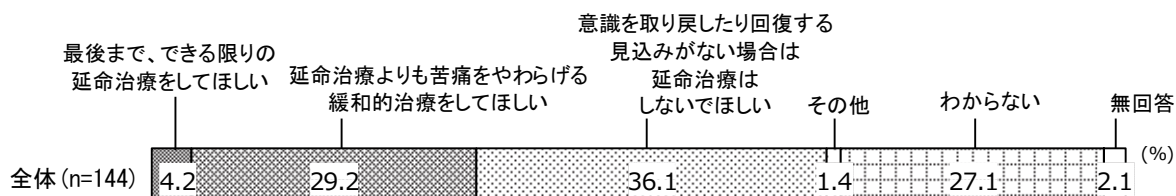




## ⑦ 延命治療についての希望（問 25）

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は延命治療はしないでほしい」（36.1%）が最も多く、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」（29.2%）、「わからない」（27.1%）と続いている。

■延命治療についての希望



## ⑧ 長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無（問 26）

長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無は、「伝えている」が53.5%、「伝えていない」が34.0%となっている。

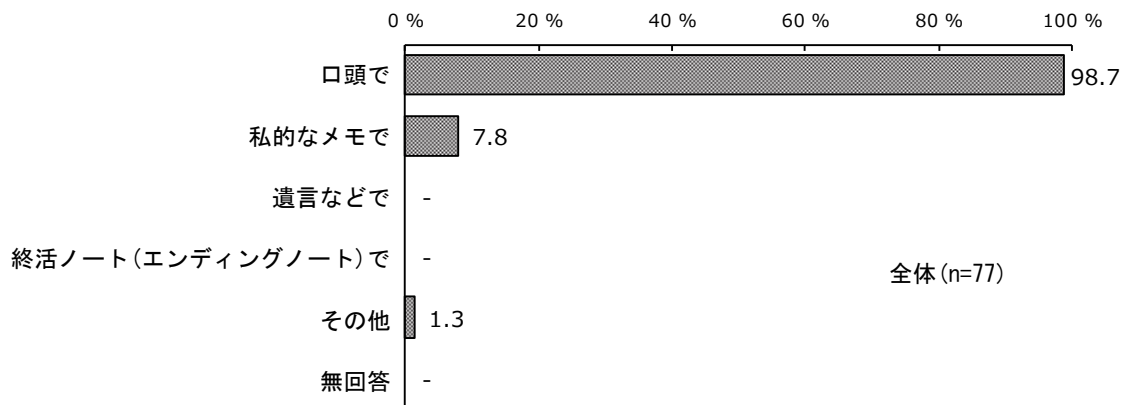
■長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無



⑨ 長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（問26付問1）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人（問26で「伝えている」と回答した人）の伝え方は、「口頭で」（98.7%）が最も多く、「私的なメモで」（7.8%）が続いている。

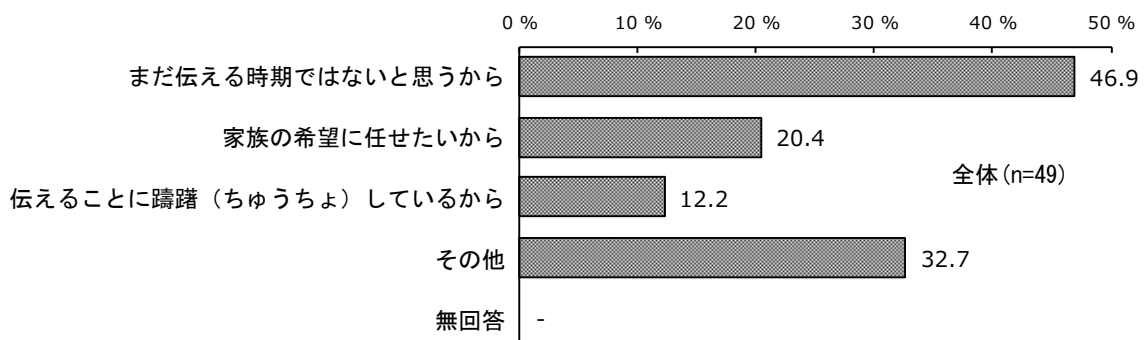
■長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（複数回答）  
 〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人〉



⑩ 長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（問26付問2）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人（問26で「伝えていない」と回答した人）の理由は、「まだ伝える時期ではないと思うから」（46.9%）が最も多く、「その他」（32.7%）、「家族の希望に任せたいから」（20.4%）と続いている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（複数回答）  
 〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人〉



## ⑪ 「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度（問 27（1））

在宅療養後方支援病床確保事業の認知度は、「名称も内容も知っている」が 11.1%、「名称は聞いたことがある」が 8.3%、「はじめて聞いた」が 75.7%となっている。

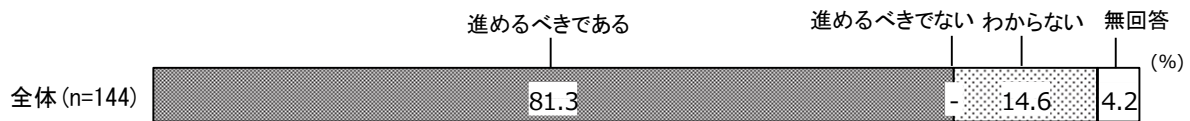
## ■ 「在宅療養後方支援病床確保事業」の認知度



## ⑫ 在宅療養実現のための取り組みの推進（問 27（2））

在宅療養実現のための取り組みの推進は、「進めるべきである」が 81.3%、「わからない」が 14.6%となっており、「進めるべきでない」という回答はなかった。

## ■ 在宅療養実現のための取り組みの推進



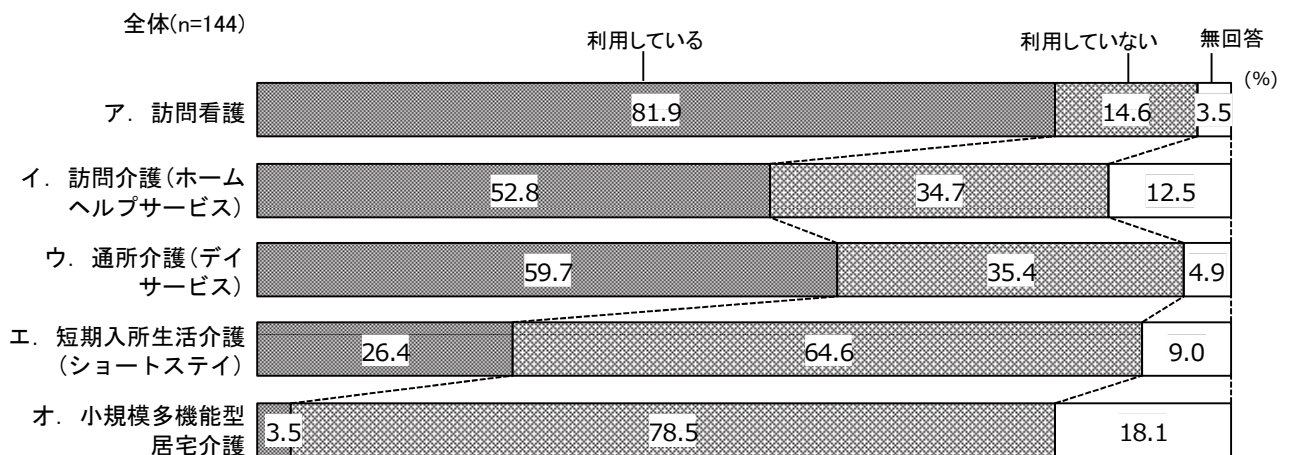
※問 27 付問は、問 27（2）で「進めるべきでない」と回答した人がいなかったため省略している。

(5) 介護保険サービスの利用

① 主な介護保険サービスの利用状況と利用していない理由 (問 28)

主な介護保険サービスの利用状況は、訪問看護が81.9%で最も多く、通所介護(デイサービス)が59.7%、訪問介護(ホームヘルプサービス)が52.8%で続いている。これらに比べ、短期入所生活介護(ショートステイ)(26.4%)や小規模多機能型居宅介護(3.5%)は「利用している」との回答が少なくなっている。

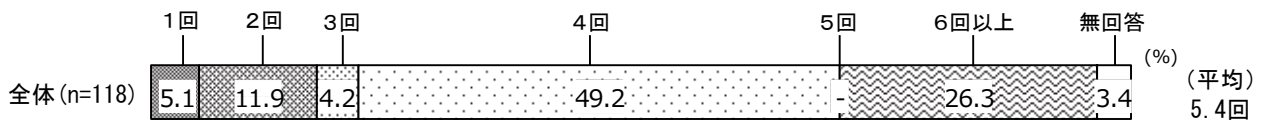
■ 主な介護保険サービスの利用状況



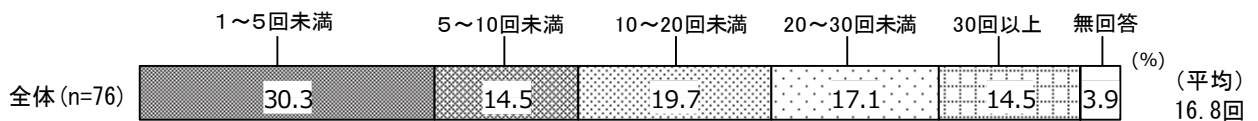
主な介護保険サービスを「利用している」と回答した人の1か月あたりの利用回数は、訪問看護は「4回」(49.2%)、訪問介護は「1～5回未満」(30.3%)、通所介護は「5～10回未満」(38.4%)、短期入所生活介護は「1回」(55.3%)、小規模多機能型居宅介護は「4回」「6回以上」(ともに40.0%)が最も多くなっており、平均はそれぞれ5.4回、16.8回、8.6回、2.4回、10.3回となっている。

■ 1か月あたりの主な介護保険サービスの利用回数  
 〈主な介護保険サービスを「利用している」と回答した人〉

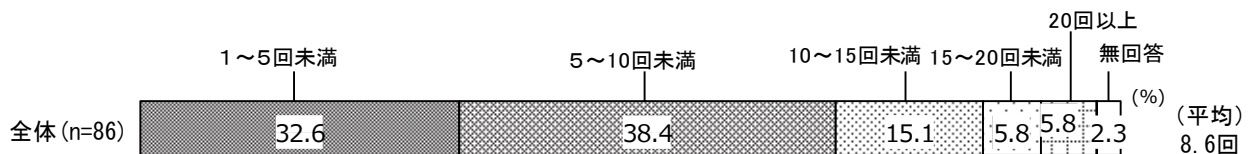
ア. 訪問看護



イ. 訪問介護(ホームヘルプサービス)



ウ. 通所介護(デイサービス)



エ. 短期入所生活介護(ショートステイ)



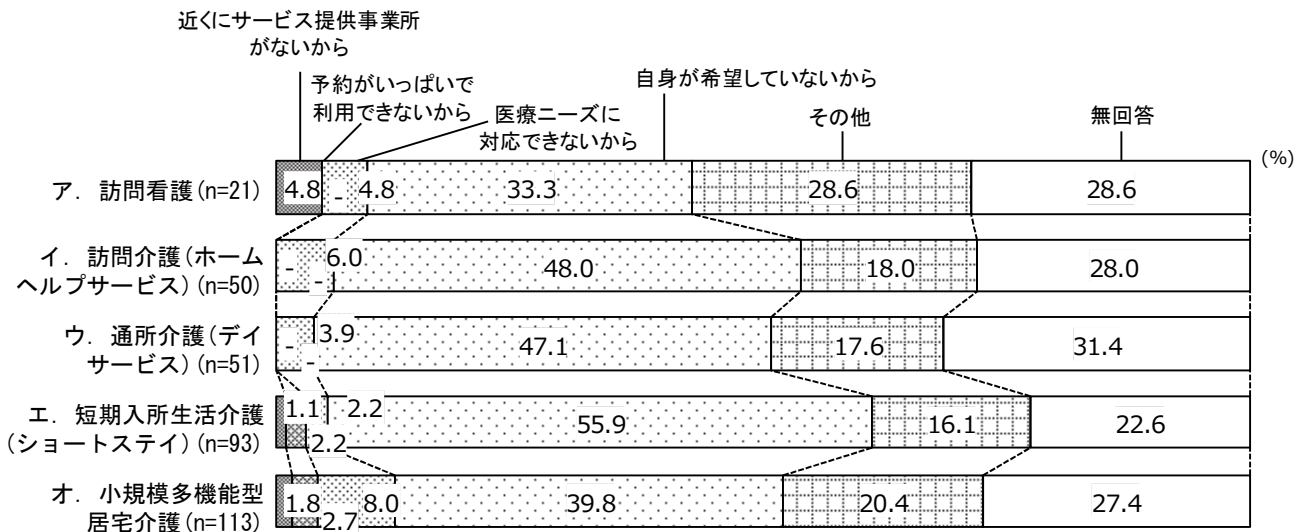
第2章 各調査の結果

オ. 小規模多機能型居宅介護



主な介護保険サービスの利用状況で「利用していない」と回答した人の利用していない理由は、いずれのサービスも「自身が希望していないから」が多く、特に訪問介護、通所介護、短期入所生活介護では5割前後となっている。

■主な介護保険サービスを利用していない理由  
 〈主な介護保険サービスを「利用していない」と回答した人〉

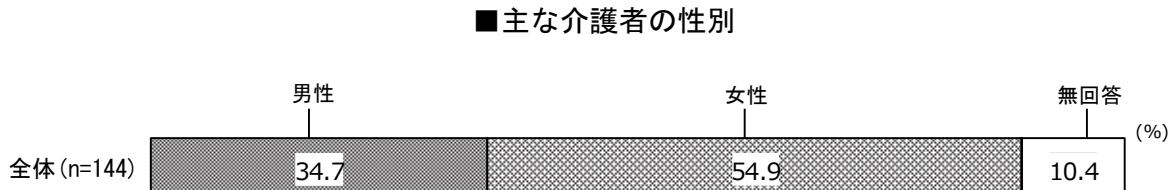


		業近 所く がに なサ ービ ス提 供事 業	で予 約が ない から ぱい ぱい で利 用	な医 療ニ ーズ に対 応で き	から 自身 が希 望し てい ない	そ の 他	無 回 答
ア. 訪問看護	(n=21)	4.8	-	4.8	33.3	28.6	28.6
イ. 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	(n=50)	-	-	6.0	48.0	18.0	28.0
ウ. 通所介護 (デイサービス)	(n=51)	-	-	3.9	47.1	17.6	31.4
エ. 短期入所生活介護 (ショートステイ)	(n=93)	1.1	2.2	2.2	55.9	16.1	22.6
オ. 小規模多機能型居宅介護	(n=113)	1.8	2.7	8.0	39.8	20.4	27.4

## (6) 介護者の状況

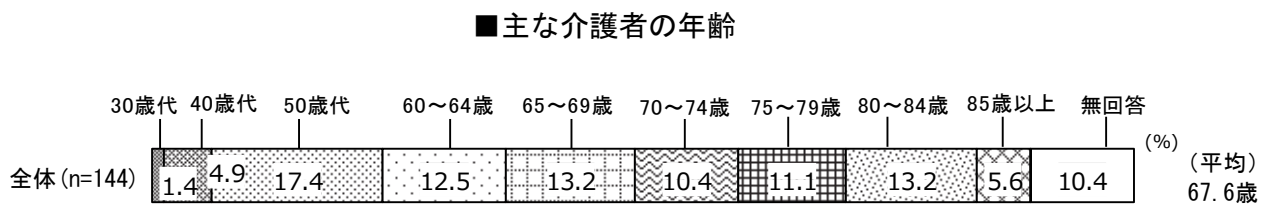
## ① 主な介護者の性別 (問 29)

主な介護者の性別は、「男性」が 34.7%、「女性」が 54.9%となっている。



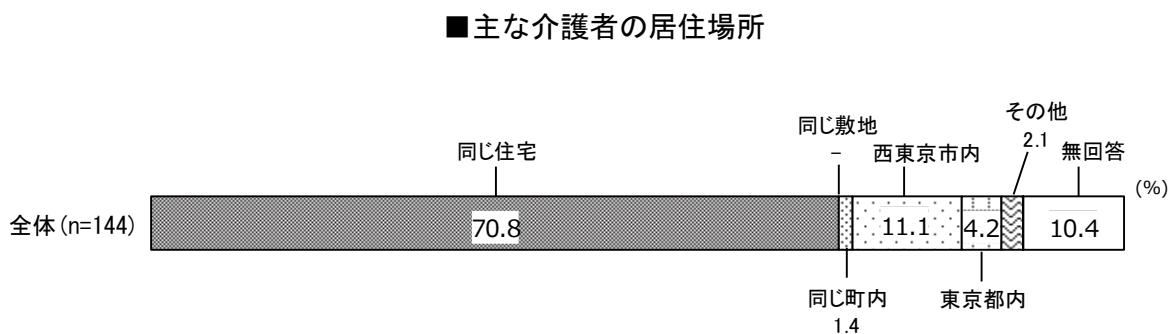
## ② 主な介護者の年齢 (問 30)

主な介護者の年齢は、「60歳未満」が 23.7%、「60～64歳」が 12.5%、「65～69歳」が 13.2%、「70～74歳」が 10.4%、「75～79歳」が 11.1%、「80～84歳」が 13.2%、「85歳以上」が 5.6%となっている。また、前期高齢者は 23.6%、後期高齢者は 29.9%、平均は 67.6歳となっている。



## ③ 主な介護者の居住場所 (問 31)

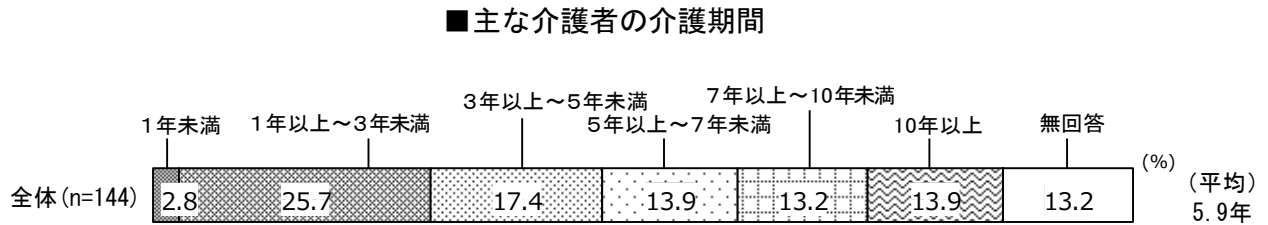
主な介護者の居住場所は、「同じ住宅」(70.8%)が最も多く、「西東京市内」(11.1%)、「東京都内」(4.2%)と続いている。「西東京市内」(「同じ住宅」「同じ敷地」「同じ町内」「西東京市内」の合計)は 83.3%となっている。



第2章 各調査の結果

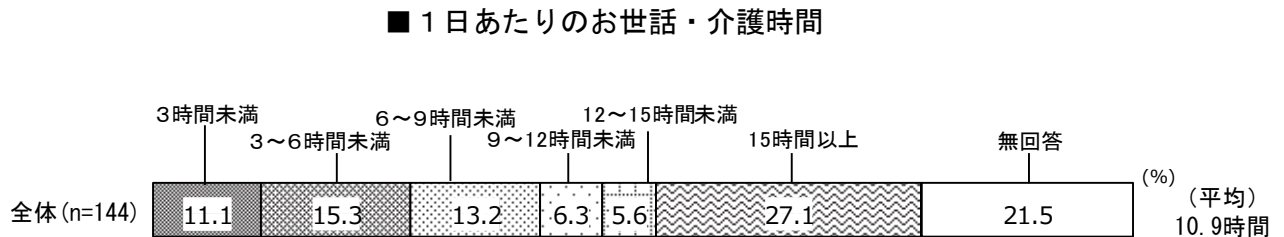
④ 主な介護者の介護期間（問 32）

主な介護者の介護期間は、「1年以上～3年未満」（25.7%）が最も多く、「3年以上～5年未満」（17.4%）、「5年以上～7年未満」「10年以上」（ともに13.9%）と続いており、平均は5.9年となっている。



⑤ 1日あたりのお世話・介護時間（問 33）

1日あたりのお世話・介護時間は、「15時間以上」（27.1%）が最も多く、「3～6時間未満」（15.3%）、「6～9時間未満」（13.2%）と続いており、平均は10.9時間となっている。



平成25年度調査と比較すると、「6～9時間未満」は6.2ポイント増加し、「3時間未満」は10.0ポイント減少しており、平均が前回調査（9.4時間）から増加している。

■ 【前回比較】 1日あたりのお世話・介護時間

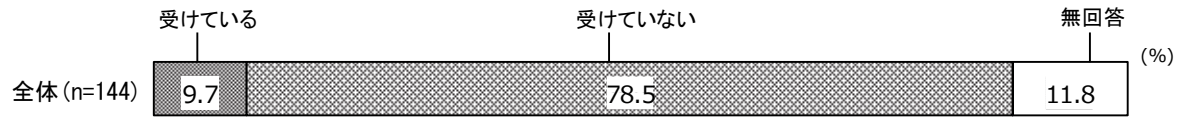
	割合 (%)						
	3時間未満	3～6時間未満	6～9時間未満	9～12時間未満	12～15時間未満	15時間以上	無回答
平成28年度調査 (n=144)	11.1	15.3	13.2	6.3	5.6	27.1	21.5
平成25年度調査 (n=171)	21.1	19.3	7.0	3.5	8.2	22.2	18.7



## ⑥ 主な介護者の要介護認定の状況（問 34）

主な介護者の要介護認定の状況は、「受けている」が9.7%、「受けていない」が78.5%となっている。

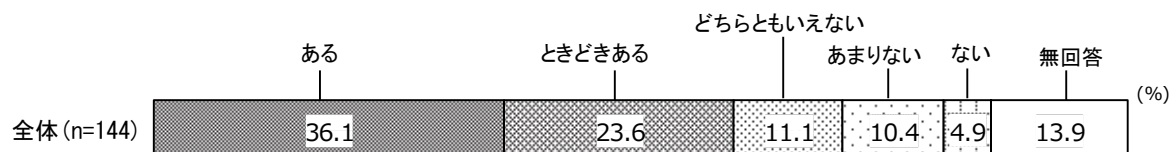
■主な介護者の要介護認定の状況



## ⑦ 介護負担（問 35）

介護負担は、“ある”（「ある」「ときどきある」の合計）が59.7%、“ない”（「あまりない」「ない」の合計）が15.3%となっている。

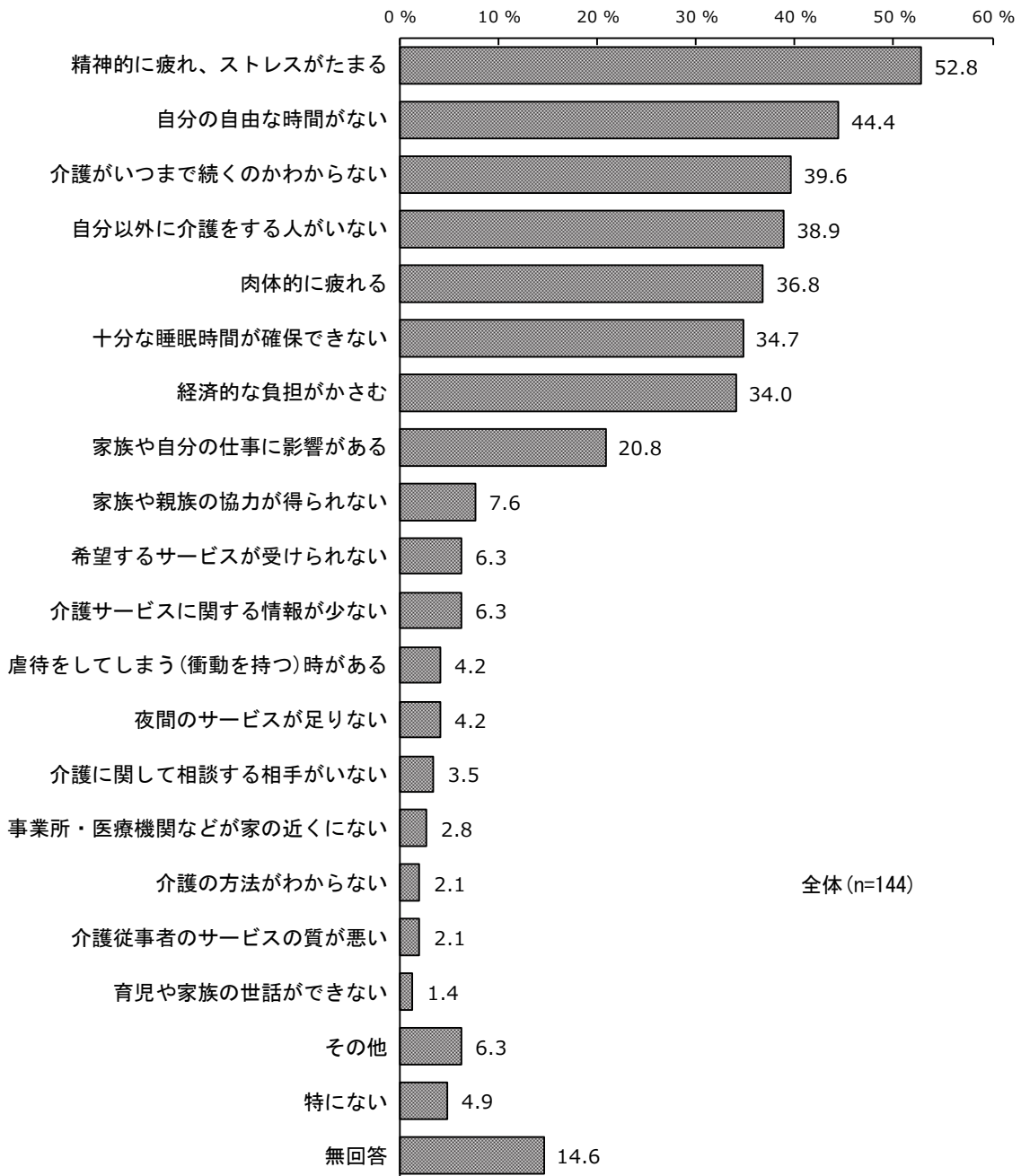
■介護負担



⑧ 介護をするうえでの困りごと（問36）

介護をするうえでの困りごとは、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」（52.8%）が最も多く、「自分の自由な時間がない」（44.4%）、「介護がいつまで続くのかわからない」（39.6%）と続いている。

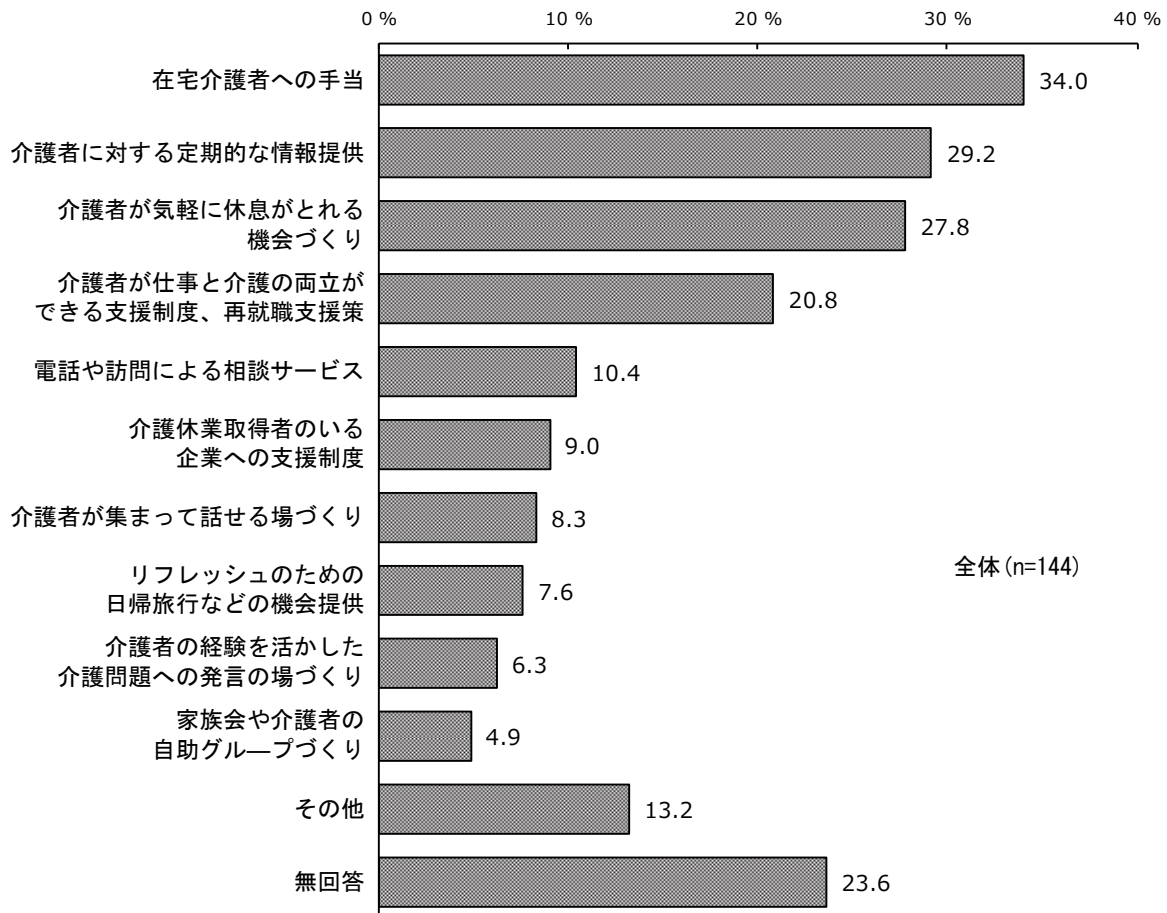
■介護をするうえでの困りごと（複数回答）



## ⑨ 介護者の支援策で必要なもの（問 37）

介護者の支援策で必要なものは、「在宅介護者への手当」（34.0%）が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供」（29.2%）、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」（27.8%）と続いている。

■ 介護者の支援策で必要なもの（複数回答）



⑩ 医療や介護サービスへの意見・要望（問38）

医療や介護サービスについて、自由記述形式でうかがい、内容ごとに分類・整理を行った。主な意見は、以下のとおりとなっている。

◇介助者への支援について

- ・介護と仕事の両立ができれば働きたいと思うが、介護者はいつ休むことができるのか疑問。先が見えないというのが現状。
- ・今のところ問題なくやっているといるが、自分も年をとって少しずつ体調に影響を及ぼしているかもしれない。仕事との両立が心配になる時があるが、将来を考えれば、働けるだけ働かなくてはならない。
- ・本人に少し認知症があり、通所を断わられた。もう少し自宅介護者を支援する制度を整えてほしい。

◇経済的な問題について

- ・今後のサービス利用時の金銭的な不安がある。
- ・本人以外にも3名の病人がいる。介護保険の負担が2割になり、経済的に苦しい。
- ・現在、咀嚼力が弱くなり、硬い物が食べられず、市販の介護食等を購入している。在宅介護の食費代として支援してほしい。

◇情報提供について

- ・どんな医療や介護サービスがあって、どんなサービスが受けられるのかよく分からない。
- ・市報等で紹介されていることが自分たちに当てはまるかどうか、どこへたずねるか、困ることがある。

◇医療と介護の連携

- ・現状、訪問看護をお願いしているが、病状急変の場合、医療機関との連携が不十分だと思われる。
- ・市が病院と介護保険サービス事業者の連携の接点をつくってほしい。両者ともどう取り組めばいいのか理解されていない実情がある。